

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

研究 2 高齢がんサバイバーの在宅療養・フォローアップ体制に関するスコーピングレビュー

研究分担者 名古屋大学医学部附属病院 化学療法部 教授 安藤 雄一  
 研究分担者 名古屋大学大学院医学系研究科 消化器外科学 教授 小寺 泰弘  
 研究分担者 杏林大学医学部腫瘍内科学 教授 長島 文夫  
 研究分担者 島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 講師 津端 由佳里  
 研究分担者 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構(医) 教授 梅垣 宏行  
 研究分担者 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 呼吸器内科 部長 山本 寛  
 研究分担者 東京大学医学部附属病院 特任教授 山中 崇  
 研究分担者 京都大学医学部附属病院 教授 寺田 智祐  
 研究分担者 慶應義塾大学看護医療学部 教授 鈴木 美穂  
 研究分担者 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所 行動科学研究部 室長 島津 太一  
 研究分担者 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所サバイバーシップ研究部 研究員 松岡歩  
 研究分担者 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所サバイバーシップ研究部 部長 内富庸介

研究要旨

高齢がんサバイバーの在宅療養、がん治療に伴う晩期合併症や再発・二次がん・その他の併存疾患等のフォローアップ体制について、国内外における現行施策や課題を網羅的に収集し科学的に整理するためスコーピングレビューを行う。

A. 研究目的

高齢がんサバイバーの在宅療養・フォローアップ体制に関する国内外における現行施策や課題を網羅的に収集し科学的に整理すること

B. 研究方法

「高齢がんサバイバーの在宅療養・フォローアップにおいて、どのような連携がなされているか？」  
 「高齢がんサバイバーのニーズは何か？」  
 「国内外でどのような施策が実施されているか？」等のクリニカルクエスションについて、MEDLINE, PsycINFO, 医中誌などにおいて網羅的な文献収集を行い、抽出された課題をテーマ毎に整理する。抽出された課題や好事例は、研究③アンケート調査、研究④好事例へのインタビュー調査に反映させる。

（倫理面への配慮）

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に該当しない

C. 研究結果

高齢がんサバイバーの在宅療養、フォローアップについて、日本のがん診療連携拠点病院を中心として、どのような連携が行われているかを網羅的に収集し科学的に整理する方針であったが、予備調査の段階で、日本の「連携」に関する文献が英文・和文ともにほとんど存在せず、かつ日本と海外の医療システムの違いから、海外の文献レビューを行ったとしても海外のモデルをそのまま日本へ外挿するのは困難であると考えられた。そのため、一部方針を変更し、高齢がんサバイバーにおける併存症や、二次がん・晩期/後期合併症の患者アウトカムへの影響、フォローアップ体制の課題につい

て包括的にレビューする方針に変更した。

「高齢がんサバイバーのアウトカムに対して、併存症はどのような影響があるか？」というクリニカルクエスションについて、MEDLINE、医中誌による網羅的な文献収集を実施し、併存症とがんによる死亡（cancer-specific survival, disease-specific survival など）及びがん以外による死亡（overall survival, other-cause mortality など）の両方の生存アウトカムを評価している論文（日本は大規模コホート研究がなく後ろ向き観察研究を含めた 16 件、海外の大規模コホート研究 16 件）を抽出した。うち、併存症とがん以外による死亡に関連はあるが、併存症とがんによる死亡には関連がない論文は、日本で 11/16 件、海外で 3/16 件であった。

D. 考察

事前の仮説は「併存症のあるサバイバーは、がん以外が原因で亡くなる可能性が高い」というものであったが、仮説と一致する論文は、日本では 11/16 件であったのに対して、海外では 3/16 件と少なく、海外では併存症の影響で標準治療が受けられていない現状が示唆された。いずれにしても、高齢がんサバイバーにおいて併存症のマネジメントは重要であると考えられた。

E. 結論

高齢がんサバイバーにおける併存症マネジメントは重要である。拠点病院を中心とした各医療圏で、多職種が連携して併存症マネジメントを行う必要があると考えられる。

2024 年度は、がん治療に伴う晩期合併症、再発・

二次がんの患者アウトカムへの影響についても、  
スコーピングレビューを実施予定である。

F. 健康危険情報

該当なし

(分担研究報告書には記入せずに、総括  
研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし